

## ハイパー核物理の発展と今後の展望

### [世話人メッセージ]

元場俊雄先生が 2013 年 3 月末日をもって、大阪電気通信大学を定年退職されました。元場先生は、1972 年、京都大学大学院理学研究科博士課程を修了し、 $0f-1p$  閉殻近傍の核構造の研究で理学博士の学位を取得されました。その後、湯川記念財団奨学生、日本学術振興会奨励研究員を経て、1976 年、大阪電気通信大学工学部講師に着任されてから、助教授、教授として 37 年間の長きにわたり教育研究に尽力されてこられました。また 2000 年には工学部長、2002 年には学長、2008 年には図書館長として、大阪電気通信大学の要職を歴任され、大学運営に多大な貢献をされてきました。

元場先生は、ハイパー核の理論研究の分野で 30 年以上にわたり最前線で活躍つづけてこられました。ハイパー核の生成・構造・崩壊の広い観点から緻密な研究を行い、今日のハイパー核研究発展のいしずえを築くとともに、世界をリードする多くの研究成果と実績を挙げられてきました。

また国際的国内的な共同研究や理論家と実験家の協力研究を積極的に進め、数多くの国際会議の諮問委員や組織委員、学術誌の編集委員を務めるなど、原子核物理学やストレンジネス核物理の分野の発展に貢献されてきました。

このたび、先生の 37 年間のご功績を記念し、併せて友人・知人・後輩・共同研究者として先生に謝意を表すために、下記のような記念研究会を企画いたしましたので、ご案内いたします。